

# 翔

NO.68

'88 FEBRUARY



Butterfly  
Beetle  
Insect

百万石蝶談会

## 「 ロッキー II 」

野 中 勝

7月15日 本日はアメリカで車で行ける最高地点である、エバンス山(4348m)に登る日。興奮を押さえ切れずワクワクしながら出発する。宿から30分走って牧場の脇を通りかかると、パル風の白い蝶がフワフワしているのが目に入る。車を止めてネットインすると、まぎれもない *Parunassius phoebus*。しかし残念ながらボロボロで、赤いはずの紋もオレンジ色にあせている。充(7歳の長男)と2人で数匹採集したが、どれも汚損が著しく、高標高地に新鮮なものがあることを祈って先へ進むことにする。途中2、3匹のパルを目撃したが、車を止めて採集する様なポイントも見当たらないままに森林限界を出してしまう。すると数匹のパルが道路上をフワフワしており、ひとまず最高地点までという予定もどこへやら、道幅が広がった所で車を止めてしまう。道の谷側を覗くと、なだらかな斜面に乾いた感じのお花畑が広がっており、白いパルの姿が何匹か見える。ネットを開く間ももどかしく、かけだして1頭をネットインすると、新鮮な♂。小さいながら赤紋が鮮やかである。次々に追いかけて数匹を採集したところで、ようやく一安心してみると、足はガタガタ、息はキレギレ。良く考えてみると、ここは見晴らしがきく為、遠くの蝶まで見えてしまい、ダッシュしなければならぬ。広いため一見ならぬに見える斜面も実際はかなり急、標高が4000m近く、空気が薄いなどの諸条件から無理もないことである。パルの飛翔力自体はウスバシロチョウとたいして変わらない様であるが、かなりのスピードで風に流される為、採集はそれほど容易ではない。ここで20頭近く採集したが(全て♂)、その間長男が遂に1頭も採集できなかったことが、それを物語っている。パル以外では *Colias meadii* が得られた。雲が払がってきたので、急いで山頂を目指す。車は直下までで、それから子供連れで10分程歩かされる。風の為寒く、息も苦しい。ようやく4348mの山頂へ。山頂から回りを眺めると、同じ位の高さの山がそこら中に見え、この山塊が途方もないものであることが良く分かる。頂上の少し下に、先程のお花畑とはかなり感じの異なるガレ場風のお花畑があったので *Oeneis* を期待して踏み込んでみる。陽がかげって条件が悪かったが、20分程歩き回って *Oeneis melissa* を2頭採集することができた。堂々と柄のついたネットを使って *Oeneis* を採集するのは妙な気分である(?)。高山植物の写真などを撮りながら下り、先程のパルポイントでパル数頭を追加。1頭飛んでいる時から黒っぽく透けて見えたのが、何と早で♂に比べて立派な赤紋に手が振るえてしまう。赤い紋のパルを高山植物の咲くお花畑で、堂々とネットを振って採集するというのは、日本ではとても考えられない事だけに、非常に良い気分であった。

7月16日 昨夜は宿に戻ってから、採集したパル♀を何度も眺めては、その美しさに一人ニヤニヤしていた。持参した「 Butterflies of the Rocky Mountain

States」に因れば、ここの *P.phoebus* は *sayii* という亜種に属し、Wyoming の北半分には、更に赤斑の発達の良い *montanulus* という亜種が分布するとあり、後半の採集にますます期待がかかる。ともあれ、本日はまたもや物見遊山の日で、Rocky Mountain National Park へ向かう。途中、道路脇のガレ場風の所に、何種類かの花が非常に美しく咲いていたので車を止めると、フワフワしているパルが目に入る。ここは平坦で足場も良かった為、充と二人で数頭採集したが全てボロ♂。♂がボロだからといって、残念ながら♀の姿は無い。National Park に入ると確かに素晴らしい景色が展開する。4000mを越える尾根道は気分が良いが、車が多いのと、あいにく天気が悪い為、たまの晴間にパルが姿を見せる位であまりさえない。もっともいずれにしろネットは振れないのだから、蝶の姿は無い方が精神衛生上良いのかも知れない。おにぎりを用意して、お花畑で食べる計画であったが、悪天の為やたら寒くみぞれまで降ってきたので、車の中でいじけて昼食。午後は早めに帰路につく。途中再び3000m以上の峠を越える頃には天候が回復してきたが、蝶の姿は無し。パルも何処にでもいるというものではないらしい。

7月17日 本日はいよいよ Wyoming に移動する日であるが、どうしてもパルの♀を追加したくて、エバンス山で午前中を過ごすことにする。朝、目を覚ました時には快晴であったが、朝食をとっている間に雲が拡がり、エバンス山への約1時間の道程は晴れたり曇ったりで気が気で無い。15日の帰り際に、この日採集した場所の直ぐ近くに、更に良さそうな斜面があることに気がついていたので、そこに行ってみたら曇り。寒いのでセーターを着こんでお花畑を歩き回るが、何も飛び出さない。空を見ると雲の流れは早く、少しすれば晴れ間が有りそうなので、岩に越しかけて待つ。しばらくすると予想通り陽が差してきて、直ぐにパルが飛び出す。あわてて数頭採集するが全て♂。すると充が「♀採った～」と騒ぐので行ってみると、本当に新鮮な♀が入っていて思わず「エライッ」。よし僕もと思った途端に雲がかかってパルは全て姿を消してしまう。その後は、照ったり曇ったりを繰り返しながら、次第に晴れ間が多くなり、遂には完全な晴天となる。何頭めかのパル♀が道路を横切り谷側の斜面へと入って行った。後を追って、その斜面を覗いた僕は思わずアッと叫びそうであった。無数のパルが飛んでいる。今までいた場所は見通しがそれほど効かないこともあって、一度に目に入るパルはせいぜい数頭であった。ところがここは広い斜面をずっと下まで見通せる為、数十頭のパルがフワフワしているのが目に入る。但し遠くからでも見えるのは全て翅の白い♂で、♀は透明感が強く、近づかないと目につかない。歩いていると急に足元から飛びだし、飛翔力が♂より弱いのか、よく風に乗ってとんでもない所まで飛んでいってしまう。運良く近くに止まってくれた時はそっと近づくと、半透明の♀は本当に良く周囲に溶け込んでいて、発見は容易ではない。ようやく見つけると、食草でもなく草に産卵行動をしたりしている。こんな♀だけを目的とした採集は楽ではないが、それで

も充と二人で納得できるまで採集した。他には Erebia callias、Colias meadii など。昼からはハイウェーをとぼし、デンバーを素通りしてワイオミングのララミーという町に泊まる。

7月18日 今日も快晴。予定はワイオミングの北西端に位置するイエローストーン、グランド・ティートン両 National Park の近くまでだが、ただ走るだけではつまらないので、ララミーの近くの Snowy Range 峠(3290m)を越えることにする。ここは前述のロッキーの蝶の本にもパル等の産地として紹介されていた所だけに期待が持たれる。しかし車で標高を上げて行くにつれ風が強くなり、峠に着いたときは快晴にもかかわらず、強風の為ムチャクチャ寒く、蝶どころでは無かった。高山植物はきれいなものが多く、特に出発前から是非見たいと思っていた氷河ユリという名の黄色いユリの群落は、今回の旅行中ここだけで見られたが、強風に揺れてまともに写真を撮ることもできなかった。長居は無用と下りですが、風はいつまでも強く、たまに Colias、Pontia などのシロチョウがちらつく程度。町に出たところで例によってマクドナルドのハンバーガーを買い込み、かじりながら目的地ドウボワを目指す。途中は再び、かなり乾燥して砂漠風の平原。従って蝶の姿はない。ドウボワの町は National Park に近い為、宿を心配していたが、5時頃着くといくつかあるモーターはいずれも vacancy (空室アリ) の看板を出していた。しかしモーターの部屋で米の飯を炊き、「スシタロー」でわびしい夕食を済ませて外に散歩に出た時には何処も no vacancy に変わっていた。アメリカ人はどうも予約なしに旅をして、夕方になると近くの町で宿を探すというのが一般的な様である。我々も今回の旅行はほとんど予約しなかったが、コロラド、ワイオミングに関してはそれで問題ないと思われる。

7月19日 今日はグランド・ティートン National Park を見物しながら横ぎり、南のピネデールという町まで足を伸ばし、明日その付近でパルの montanulus 亜種を探すのに備えるという予定である。グランド・ティートンは写真で見えていた通りの素晴らしさ。剣岳の様な岩山が連なっており、道路はこの山波と平行に走っている。所々景色の良い所が駐車場となっているが、この山は少し角度が変わる度に別の素晴らしい顔を見せるので、つつい写真は何枚も撮ってしまう。昼からピネデールを目指す。途中にはこの辺では珍しく日本の高原を思わせる様な感じの良い所があった。車を止めシジミ、ヒョウモン等を採集する。なかに大型の美しいブルーがいたが、夜図鑑で調べて Blue Copper 直訳すればアオベニシジミと言う。アメリカには多いベニシジミの仲間であることを知り驚いた。

7月20日 宿の部屋に置いてあったパンフレットを見て、フレモント湖へ行くことにする。行止りの標高が2700mと言うことで、P.p.montanulus にはやや不足かと心配になるが、近くに高所まで登れる道は無い様なので、そこで手を打つ。行止りまで登ってみたが、キャンプ・サイトになっており、人が多いので

Uターンして、採集地を探しながらノロノロ下ってくるとパル出現。採集すると♀。やや翅が破れているが、赤斑の発達はコロラドのものよりずっと良く嬉しくなる。近くに車を止め、充と二人で採集するがパルはその1頭のみ。しかし他の蝶は豊富で、土に止まっている変な *Oeneis*、ヒヨウモン、各種シジミ等が多数得られた。美しいパルに心を残しながらも、今日の行程は先が長いことを考え、昼前には下ることにする。途中、湖が見降ろせる展望台に寄ってみると、セイジの生えた典型的な荒野が湖へ続いており、何とパルが飛んでいる。あわてて採集すると♂のボロ。充も採集したが、これも♂。ただし新鮮。♀が欲しいと少し粘るが、遂にそれ以上は姿を現さなかった。更に下ってピネデールの間近まで来た時、女房がパルを発見して再び車を止める。道脇のセイジの荒野にパルがフワフワしているが、牧場になっているのか鉄条網が張ってあって入れない。時々道へ出てくるが、どこから来るか予想がつかず、前へ後ろへ散々走り回される。数頭採集するが、どれもボロ♂。充が♀を採集したが、それもボロ。エバンス山の個体と比べると、一般に大型で赤斑の発達も良く、新鮮ならさぞ美しいだろうと思うがボロでは仕方なく、時間のこともあって見切りをつける。以後ひたすら昨日の道に戻るが、道路工事で止められて車の外へ出てみると何とパル、しかも透明だから間違いなく♀が飛んでいるのが目に入る。その個体は風に乗って何処かへ行ってしまったが、また遠方に別のが出現したので、風向きを考え全力ダッシュ。うまくリーチ内に入れ見事にネットイン。これも間違いなく♀に見えたので赤斑はいかにとネットを覗いてア然。赤斑が無い。なんとそれは *Hemileuca hera* と言う昼行蛾であった。形態から飛び方まで、優秀な虫屋(?)の目をも欺く実に良くできた mimicry である。途中ケンタッキー・フライドチキンを買込み、再びかじりながら<sup>1)</sup>運転、グランド・ティートン、イエローストーン両 National Park を走り抜ける。イエローストーンでは道脇に、ヘラジカ、シカ、野牛、遂にはクマまでが出現した。それらをカメラに納めながら、モンタナのーク・シティーに7時頃着く。ここは2泊の予定。良さそうな針葉樹林があったので、今日は初めてトラップをかける。ただし先ほどのクマの姿が頭にちらついて、深入りする気になれず10個のみ。

7月21日 本日はまたまた観光デー。有名なイエローストーン National Park をまわる。パンフレットによれば、車で主なポイントを見て回るだけでも最低3日は必要とあるが、ムシの採れない National Park に長居は無用、1日でザッと見て回る事にする。運良くと言うべきか悪くと言うべきか、天候は思わしくない。小雨がパラつく中を、硫黄の噴き出る温泉、滝などを見物しながら、この公園の売り物、間欠泉の Old Faithful へ行く。何の予備知識も無しに行ったが、45~90分に一度、数分間蒸気が吹き出してくることが説明されており、

<sup>1)</sup>かじりながらの運転にはフライドチキンは手がベタベタになってしまい、全く適さない。そこでチキン・ナゲットを愛用している。

周りに設置されたベンチには既に大勢の人が腰かけて待っていた。もう直だろうと待っていると、案の定5分位で吹き上げてきた。ただし同時に激しい雷雨となり、見物客はクモの子を散らす様に駐車場へ急ぐ。我々も車に逃げ込み、又もや車の中でおにぎりをかじる。この日は遂に天候回復せず、国立公園巡りは雨の中無事終了する。

7月22日 本日はモンタナ州との境にある Beartooth pass (クマの歯峠?) 3340m 付近で採集する予定。パルに関しては最も有望と思われるので、発生地が見つければ時間いっぱい採集する事にして宿泊地は未定。先ず7月20日のトラップを見回ったが、ゴミムシ数頭のみ。雲が多く風が強く、次第に悲観的になってゆく。峠へ行く途中に良さそうな横道があったので入ってみたが、「グリズリーの行動範囲につき注意」という立札があり、すぐにUターンと決定。せめて記念にと、立札の前で写真を撮ろうとしていると、パル♀が目に入る。

「グリズリーなんか恐くない」と追いかけてネットイン。ところが何と又もや例の蛾に化けてしまった。命懸けで追った初めての蛾である。峠付近はパル、*Oeneis* 等に良さそうな環境であったが、風が強く、寒く。蝶の姿なし。止む無く下りながら所々で車を止めて様子をうかがうが、車の窓を空ける度にビュー。強風は一向に止む様子がない。半分諦めかけて樹林帯まで下っていくと、道路脇のガレ場にパル。車を止めて歩き回ると、パル、*Oeneis* sp. *Erebia* sp. 等が得られた。パルは♀も数頭採集できたがややボロ。この発生地は狭く、また数も余り多くないので、更に下っていくと、セイジの荒地が Camp Ground になっており、車の中からでもフワフワしているパルの姿が目に入る。ここは平坦で数もかなり多かったので、♂はそこそこにして♀を主に追っかける。赤斑はベタッと真赤なものから、中に白い紋が入っているものまで色々で、大きさも様々。いくらでも欲しくなる。但し、やや時期遅れなので鮮度が良いのを選んで採る。充もかなり戦力になり、女房はパルの撮影にトライしている。平坦な荒地にフワフワ舞うパル。エバンス山の高山性のお花畑とはまた異なった、気持のよい採集地であった。ここで時間を使った為、宿泊地はラベルという手近かな町となり、この日の移動距離210kmは、今回の旅行中最短であった。ラベルは人口1000人強の小さな町。モーテルはプール付で22ドルと、これまた旅行中の最安。また、夕食はこんな田舎町で予想もできなかった日本料理店を見つけ、ハッピーな一日であった。

7月23日 そろそろ旅行も終りに近づき、移動も東へ東へとなる。この日も2500m位の峠を越え、パルの発生地を見つけたが、なぜかひどくボロ。*Oeneis* もボロで採集しない。*Erebia epipsodea* という初めての種がいて、これもボロだったが少々採集。途中からハイウェイに入り、悪魔の塔という名の巨大な岩を見物。ワイオミングの東北端のサンダンスに泊まる。

7月24日 本日はサウス・ダコタに入り、岩山に掘られた大統領の顔で有名なラッシュモア山を見物し、ホット・スプリングという町で天然の温泉プールに

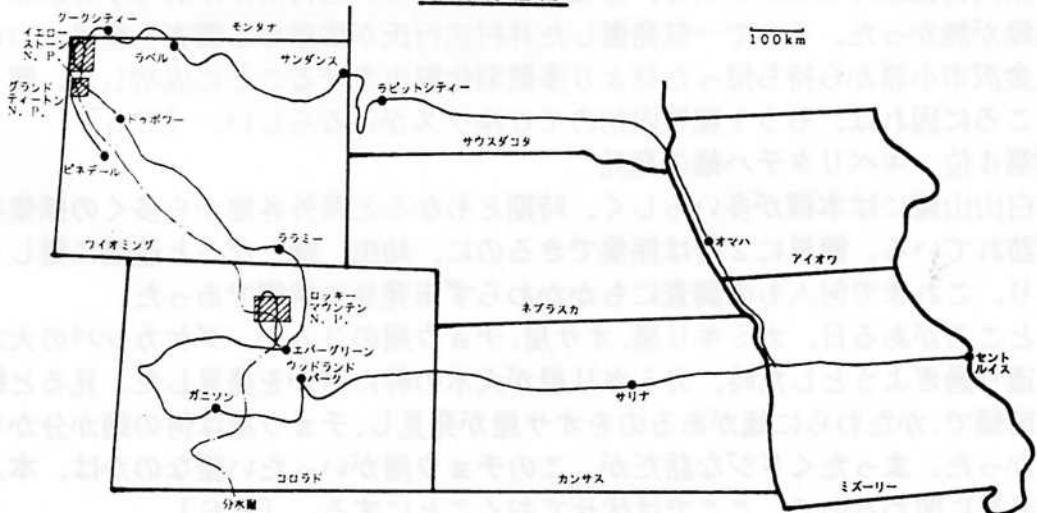
入る観光デー。天候思わしくなく、蝶の姿はほとんど見かけなかったが、pine white (マツシロチョウ?) という松食いのシロチョウだけが、樹の周りをアサギマダラよろしくフワフワしていた。これまでお目にかかれなかった種なので1ex採集。明日から2日ばかりでセント・ルイスまで帰るのに備えて、ハイウェー沿いのラビット・シティーに宿をとる。

7月25日 サウス・ダコタを横切り、アイオワに入り、オハマ付近に泊まる。やたらに暑く、セント・ルイスの地獄の夏を思いだしてくる。

7月26日 ただ帰るだけと思って気が抜けたせいか、腹の調子を崩し、運転はほとんど女房まかせ。カンサス・シティーまで南下し、後は行きに通った道をセント・ルイスへ。2週間締め切っていたアパートは予想通り、地獄の暑さであった。

終ってみれば16日、8000kmの旅はやや強行軍すぎた様で、事前の情報不足もあって、夜間採集の為に用意した蛍光灯、白幕は使うチャンスすら無く、トラップも満足にかけられなかった。思い残す事は多いが、お花畑でパルを追った楽しい思い出は、いつまでも残りそうである。前出の本によれば、ロッキー山脈には2種の Parnassius、9種の Colias、4種の Erebia、7種の Oeneis 等が分布する事になっているが、今回はそれぞれ1、2、2、3種採集することができた。家族ずれの旅行としては上出来であろう。ちなみに採集できたパル、phoebus はユーラシアにも広く分布する種で、姿を見る事ができなかった clodius の方が北米特産なのはやや残念であるが、図鑑で見ると限りでは phoebus の方が美しい様である。また北米に、もう1種のパル eversmanni、御存知ウスバキチョウが、カナダ北方からアラスカにかけて分布しているが、phoebus の経験からこれもポイントさえ見つければ、たくさん採れそうな気になってきた。いつか是非挑戦してみたい。

旅行行程図



## 1987年石川県昆虫界10大ニュース

今年も恒例の10大ニュースを、12月例会に於いて決定した。このニュースの第1位は標本箱賞とも言われ、副賞としてドイツ箱が贈られる。また第2位はムシピン賞で、ムシピンが贈られる。

文中 [ ] でくくったものは発表された翔の号数を示す。

### 第1位 医王山でムモンアカシジミを採集

採集のメッカ、ゼフの宝庫とも言われる医王山であるが、今まで本種の記録は無く、この発見によってウラナミアカシジミを除く県産全種が医王山に産することがわかった。この発見のきっかけは、澤田 博氏が医王山産ゼフ全種の採集祈願をたてたところにある。氏は6月から早朝の医王山通いを始め、来る日も来る日も往復1時間余の道程を通いつめた。回数が増え、種類数を増やして行く中で、ムモンアカシジミが頭をかすめた。はたして医王山にいないのか、それとも採れていないのか。やがて疑問は膨らみ目標へと変化し、8月に入ってから医王山通いが続けられ、8月8日の採集に至った訳である。

医王山のムモンアカシジミ自体が大きなニュースであり、さらにこれを追い求めた43日間の努力とが相まって、本年第1位の栄誉に輝いた。[66]

### 第2位 ゴマシジミの新産地発見

本県2番目の発生地が砂御前山のピーク付近で見つかった。これまでは唯一の発生地が谷底だったせいか、本種搜索の目は谷底ばかりに向けられていた。ところが最近、白山北方稜線で多数の本種が観察されだし、搜索の目が稜線へと移り、この発見となった訳である。今後似たような環境で続々と新産地が発見される願いも込められ、本年の第2位となった。[66]

### 第3位 ホソツヤヒゲナガゴバネカミキリの発見

県内初記録のモロルクスで、分布が予想されていたにもかかわらずこれまで記録が無かった。そこで一気発奮した井村正行氏が度重なる調査を続け、ついに金沢市小原から持ち帰った材より多数羽化脱出させることに成功した。聞くところに因れば、もう1種県内初のモロルクスがいるらしい。[65]

### 第4位 キベリタテハ蛹の発見

白山山麓には本種が多いらしく、時期ともなると県外各地から多くの採集者が訪れている。簡単に2桁は採集できるのに、幼虫、蛹となると途端に難しくなり、これまで何人もの調査にもかかわらず未発見の状態であった。

ところがある日、カミキリ屋、オサ屋、チョウ屋の3人が、ダケカンバの大木を通り過ぎようとした時、カミキリ屋が大木の幹に何かを発見した。見ると蝶の前蛹で、かたわらに蛹があるのをオサ屋が発見し、チョウ屋は何の蛹か分からなかった。まったくドジな話だが、このチョウ屋がいったい誰なのかは、本人の名誉に関わるので、ここでは伏せておくことにする。[66]



### 第5位 スライドグループの活躍

スライドグループの活躍を列举すると、

「インセクタリウム」の四季おりおり、「オアシス」の表紙1年分、

写真集「白山」の蝶の部その他、「自然人」の自然美術館、

「医王山の動植物パネル展」の蝶の部、

等があり、いずれも多く的一般大衆の目に触れるものばかり。

### 第6位 ギフチョウ初見のタイ記録誕生

最も早く本種が見られたのは1958年3月21日で、これまでこの記録に近づくこともできなかったが、稀にみる暖冬を幸いに初見記録更新を目論んだ男がいた。彼は蝶談会の善男善女をそそのかし、2月中旬から調査に取り掛かったが、スタート早々大雪に見舞われ、更新の夢は遠退いてしまった。しかし善男善女の頼もしい大バックアップに支えられ、29年ぶりにタイ記録が誕生した。[64]

### 第7位 ヒラタクワガタの調査進展

暖地性のヒラタは金沢には少ないと思われていたが、「そんなことは無い」とクワガタおじさんの異名を持つ田中秀夫氏は、1年間ヒラタを追いつづけた。その結果、ピークは6月と他のクワガタに比べて早いことから今まで少ないと思われていた事、平地から低山にかけて少なくない事、などが判明した。

### 第8位 カトカラ特集号の発行

2年半前に草稿されたいたにもかかわらず、諸般の事情から完成されなかった原稿がやっと日の目を見た。それというのも著者の嗟嘆井淳郎氏がモロモロのシガラミから開放され、第1線に復帰したところにある。更に追い討ちを掛けるがごとく、後続の山本直樹氏が事あるごとに叱った激励したことにより、やっと著者の重いペンが動きだし発行に至った。[63]

### 第9位 アサギマダラの調査進展

9月に行なわれた宝達山での調査からも分かるように、本種の調査が軌道に乗ってきた。まだ県内での発生は確認されていないが、宝達山での可能性も出てきたりしている。また、宝達山が渡りのルートにあることや、秋発生の可能性も飼育により確かめられた。[65][67]

### 第10位 オオミスジの大量採幼

本種幼虫はこれまでに1頭しか採集されたことが無く、大変少ないか大変難しいとされていた。ところが11月の医王山山麓で田中秀夫氏により、一挙に大量採集されてしまった。[67]

## 番外ニュース (順不同)

### 会誌「翔」の印刷化

翔の歴史を紐解けば、1978年11月に手書きコピーで出発し、6年後の1984年12月にワープロコピー(48号)となり、更に3年の歳月を経て1987年5月(63号)ワープロ印刷となった。しかし体裁が良くなった反面、経費がかさみ会費の値上げにつながった。

### 野中 勝氏、世界を股に掛ける

アメリカはロッキー山脈で採集していたかと思えば、ヨーロッパアルプスにいたりする。採集も国際化してきました。[67] [68]

### 社長ブーム

前年の10月に井村正行氏が独立し、社長ブームに火が着いた。1月には中西重雄氏、3月には野村 明氏、そして4月には田辺幸雄が相次いで独立した。当初の思惑は、好きな時に仕事をして好きな時に虫採りをするであったが、蓋をあけると大忙しの毎日が続いていた。その影響は蝶談会の動きにモロに表れ、いささか停滞ぎみであった。

### ギフチョウ新食草の可能性

奥獅子吼山の尾根続きで、ナタデラカンアオイと隣接してウスバサイシンが発見された。これまでもウスバサイシンは見つかっているが、今のところ食草として確認されていない。しかし今回の発見地はギフチョウの既産地と連続していることから、近い将来ウスバサイシンが食草の仲間入りすることはまず間違い無いと思われる。[64]

### ムモンアカシジミの新産地発見

白山新岩間温泉で新産地が発見された。新岩間温泉と言えば好採集地の1つで、県内の同好者は必ず訪れている場所だけに、この発見の偉大さがうかがえる。勝海雅夫氏は9月20日という、かなり時期はずれに発見しているが、案外以外なものは時期はずれに見つかるのかも知れない。[67]

## 1987年収支報告

(単位:円)

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
62年度会費(未納4人)	36,000	会誌作成費	71,480
61年度会費(未納1人)	5,000	例会費	12,000
バックナンバー売上費	52,450	バックナンバー作成費	10,320
郵送費	7,650	郵送費	9,910
		助成費	10,700
		消耗品費	1,320
繰越金	42,895	繰越金	28,265
計	143,995	計	143,995

※会計年度は1月1日から12月31日

会費は2月例会で集めますので、よろしくお願ひします。

年会費は今年から2,000円です。

## 会員の動き。しゃばの動き

☑11月24日中西氏、海がしけて本土に帰れず、1泊2日の粟島行は3泊4日になってしまった。逆境にめげず風雪をついて島内を掘りまくったところ、甲斐あってかマイマイがそれこそザックザックと出てきた。

☑嗟峨井氏全盛期、氏の足となって採集地を駆け巡り、喜びも悲しみも分けあった愛車“ポローナ”がついに廃車となった。代わって登場したのは、今を時めく“カーリーナED”で、もったいないらしくしばらくは採集に出かけないと言っていた。

☑12月6日松井氏、今年の高サマツ捜しも3回目となったが、またもやボツった模様。手取ダム直下は山も高く谷も深い、いけそうかと思われたが食樹が少なかった。

☑12月13日高羽氏、甲虫学会へ出席の為、大阪へ出発。

☑スライドグループの活躍を知ってるかい。タウン誌の表紙なんてのは序の口、県がらみの「白山」や「自然人」にも載ってんだぜ。すごいだろう！

☑12月も終わりに近いある晴れた日、鶴来町界限でウラギンシジミが飛んでいた。雪も無くこう暖かい日が続くと、春までに体力を使い果たしてしまうんじゃないかなあ。

☑12月26日澤田、松井の2氏、快晴に誘われ、つい医王山へ。雪が無いので、クロウメモドキやイボタで採卵。

☑山本氏、ゴマシジミに魅入られたのか夜な夜な夢にまで出てくるらしい。この分だと初夢は何処かのゴマに網を振ってんじゃないかなあ。

☑12月31日中西氏、下北半島へ単身出発。キタカブリを3ケタは採ると言い残し、臨時列車で出発したが、ツルハシを担いでいたので、帰省客で混乱する車中は更に混乱。

☑井沢氏、年明け早々インドネシアへ発つ予定。本来は年末に出発する筈だったが、チケットが取れなかったらしい。それまでは、いやいやの賭博生活を送るらしい。

☑正月早々、嗟峨井邸にて飲み比べ大会。松井氏なんぞは1升でダウン。恒例になってしまったが、料理役、お酌役にはいつもお世話をかけます。

☑吉村兄弟、年末から年始にかけてカナダで優雅にスキーを楽しんだ。ゲレンデは日本人で混み混みだったらしいが、パウダースノーには感嘆したらしい。「それに比べると日本の雪は水だよ」なんて言ってたよ。

☑高羽氏、ツチボタルツアーでニュージーランドへ行ってきた。洞窟へボートで入って行くと、天井が一面の光に覆われているらしい。これはツチボタルの幼虫がエサを誘き寄せる為に光っている為らしい。

☑1月3日井村氏、仕事始め。31日は残業、正月は2日しか休みが取れない。何処でどうなったか、嬉しい悲鳴がだんだんボヤキに変わってきた。

☑1月4日中西氏、下北半島より生還。恐山は崖も朽木もガチンガチンの氷の世界、コンクリートでも崩すような感じだったとか。それでもグリーングリーンのピカピカをきっちり掘ってきたのには頭が下がる。

☑ 諸道氏より久々に便りあり。何時の間にか長女(尚子:5ヵ月)ができたらしく、秀忠(長男)共々ヨロシクと書いてあった。

☑ 野中氏、パルの魅力に取り付かれ、今夏はカナダでウスバキに挑戦する見通し。帰国が夏まで伸びることになるらしいが、黄色いパルを思う存分ネットすることを思えば、どうでも良い事らしい。

☑ 1月14日吉村先生、共通一次を控えて大忙し。巷では新年会に浮かれ気分の輩が溢れているのに、3年の担任はひたすら「忍」の一字らしい。

☑ 1月14日柿木島、花邨にて新年会。参加者10名と少なかったが、高羽氏、指田氏(新入会員)の出席もあり、いつもと違った新鮮な話題に時の経つのを忘れてしまった。

☑ 今度の表紙、すごくイイだろう。誉めて欲しいものだね。いやこれはぜったい誉められるべきだね。もちろん俺じゃない。とうぜん小幡氏だよ。

## 例会の記録

12月5日城南管工2Fにて8時より開催。集合が遅く、10大ニュースの決定は10時頃より始まった。それまではキノコ、イノシシ、クマといった山の食べ物についての話しに花が咲いた。また、今回のみせびらかし標本は、県産のゴマと粟島のマイマイ。

雑談の内容は、県内産蝶100種をカメラに納めた(竹谷)。4月に3週間程外国へ採集に行く(山岸)。アサギマダラとクロコノマの羽化を撮った(小幡)。イボタとクロウメの採卵法は?(田中)。我々に採れないヒサマツは誰にも採れない(井村)。山ゴマのポイントはたくさんある(松井)。ワープロ注文しちゃった(中西夫人)。今の職場は女性に囲まれ、誘惑が多くて困る(野村)。医王山詣でを2ヶ月続けた(澤田)。正月採集行は下北か五島だ(中西)。参加者は以上の10人と最後にはいささか少なかった。

## 目 次

野中 勝:「ロッキー II」	1
編集部:1987年石川県昆虫界10大ニュース	7
編集部:1987年収支報告	9
編集部:会員の動き・しゃぼの動き	10
編集部:例会の記録	11

とぶ NO.68

1988年2月5日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方  
百万石蝶談会  
☎ 0762-58-2727  
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所